「ICT活用の教旅」探る
日本修学旅行協会がシンポジウム

日本修学旅行協会は22日、「第15回教育旅行シンポジウム」を東京都江東区の日本科学未来館で開いた。「ICTを活用した教育旅行～新学習指導要領にいう『深い学び』につなげるために～」をテーマに、基調講演やパネルディスカッションを行い、教育旅行でのICT活用の可能性を多角的に議論した。

パネルディスカッションの様子

日本教育情報化振興会会長で東京工業大学名誉教授の赤堀侃司氏が「ICTを活用した教育旅行の意義」と題して基調講演。赤堀氏は「情報環境が変わり、生徒自身が主体的に学ぶ社会になった」「深い学びにするには、知識を構造化する必要がある」「学びに向かう力（非認知）が重要になる」など語った。

パネルディスカッションは次の4氏がパネリストとして登壇。授業でiPadなどICTの活用を積極的に進めている城北中学校・高等学校ICT委員長の清水団氏。協働学習（子どもたちが教え合い学び合う学習）の構築や校外学習でのICT導入に取り組む三重県松阪市立三雲中学校研修主任の山﨑良氏。ICTを活用した見学ガイドなどの学校向けプログラムの制作に携わる東京国立博物館博物館教育課教育普及室長の藤田千織氏。ICTを使った教育旅行プログラムの運営を推進する奈良県県土マネジメント部まちづくり推進局平城宮跡事業推進室室長補佐の井上幸治氏。長く教育旅行に携わってきたJTB教育事業ソリューションセンター開発グループ営業開発プロデューサーの小野田一樹氏。各氏が、それぞれの取り組みについて説明した。コーディネーターは日本修学旅行協会理事長の竹内秀一氏が務めた。

「未来体験ツアー」提供
東京スカイツリー

東武タワースカイツリー（東京都墨田区）ツリータウンの東京スカイツリーイーストタワーとイツリーイーストツリー（東京都墨田区）は、隣接する東京スカイツリーの小惑星探査機「はやぶさ2」の実物大模型の展示を開始。併せて、はやぶさ2が着陸とサンプルリターンを試みている小惑星「リュウグウ」の7千分の1サイズの模型も展示した。展示されているリュウグウは、3Dプリンターにより表面の凸凹まで忠実に再現され、触ることもできる。

修学旅行などの学校団体に求められる体験学習に力を入れている東京スカイツリーでは、「学校団体予約をさらに利用しやすくするため」（東武タワースカイツリー観光営業部の森本洋正氏）、4月から学校団体の入場予約券の料金を改定し中学生は天望デッキ券950円（税別）、天望回廊セット券1450円（同）に値下げした。また、予約時の利用条件を大幅に見直し、学校団体予約が簡単にできるようにした。

また、事前学習にも力を入れており、そのコンテンツとして「東京スカイツリーの構造や建築技術」「東京スカイツリーが建つ墨田区の歴史」「墨田区の平和」「東京スカイツリー館内説明」を用意している。

申し込み・問い合わせ先は、東京スカイツリー団体予約センター☎03（3626）0634。

京都　東映太秦映画村
体験学習プログラムが人気

東映太秦映画村（京都市右京区）では、修学旅行生に体験学習プログラムが人気。体験学習は修学旅行に必須のメニューとなっており、映画村では、「見る・学ぶ・作る・参加する」をテーマに、京扇子、京うちわの手描き体験のほか、清水焼絵付け体験などがある。

時代衣装体験

見る・学ぶ・作る・参加する

班別研修用には、少人数用のメニューとして、映画村ならではの「変身体験」がある。メイク、かつらを着けて着物の着付けのみの「時代衣装体験」のお手軽プラン。短時間で変身し映画村の江戸の町を散策できる。

村内もリニューアルでアトラクションが次々と登場している。時代劇や忍者をテーマにしたものが充実した。

「天空クライミング忍登（しのぼり）」は、高さ7㍍の壁を登ったり飛び降りたりするスリル満点のクライミングアトラクション。安全装置を着用しての本格的なスポーツクライミングを気軽に体験できるもの。未成年は同意書に保護者のサインが必要なので、あらかじめ同意書をホームページからダウンロードし、必要事項を記入の上持参が必要。

「天空クライミング忍登（しのぼり）」

立体迷路「忍者の砦」は、高さ10㍍、3階建ての240ブロックの屋内型立体迷路で日本初登場。ハイスコア選手権が開催中で本格手裏剣5投の合計でハイスコアを目指す。季節ごとに優秀者を決定し、賞状と記念品がもらえる。さらに年間グランドチャンピオンには伊賀上野観光協会の協力で、伊賀特産品が贈られる。ランキングも随時映画村ホームページで発表している。

さらに、年間を通して数々の人気ゲーム・アニメーションとコラボレーションした期間限定の特別イベントも開催している。

パンフレットの郵送、申し込みなど体験学習に関する問い合わせは東映太秦映画村（☎075・864・7716）まで。

伊賀流手裏剣打ハイスコア選手権

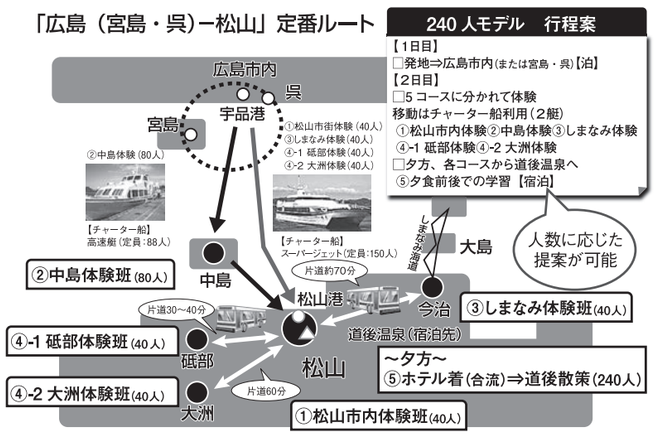
令和だからこそ訪れたい定番ルート
広島・瀬戸内海・松山「探究の旅」

令和だからこそ訪れたい魅力的な教育旅行先が、広島・瀬戸内海・松山の組み合わせだ。「平和学習」や「世界遺産を通した学習」など教育旅行の定番の地「広島」。これに瀬戸内海クルーズや島々での体験、道後温泉、しまなみ海道、多くの俳人や文学作品を輩出した松山や、砥部焼（伝統工芸の里）、清流肱川（大洲）を舞台とした、多彩かつ深い学びにつながるテーマ別交流体験メニューを組み合わせた教育旅行が人気で、広島・瀬戸内海・松山が定番ルートとなって久しい。松山市のサポートが万全なのも人気の理由だ。

チャーター船利用で効率的な移動

愛媛県外から松山市を訪れるには、海路や陸路などさまざま。その一例が、「広島―松山ルート」（2泊3日の240人モデル）。広島・松山間を最短68分で結ぶチャーター船を利用し、スムーズに移動することで、自由度の高いコース設定や充実した体験が可能。穏やかで晴天率の高い瀬戸内海での運航率は、ほぼ100％と計画が立てやすく、安全で快適な瀬戸内海クルージングを満喫できる。

宮島の世界遺産や広島の平和学習を体験した後、世界に誇る多島美と先端技術の粋を集めた長大橋群が織りなすしまなみ海道を渡り、瀬戸内海の雄大な自然や、そこで育まれた歴史などを体感したあと、松山に入るルートが人気だ。



保存修理工事中の道後温泉本館正面

なぜ、令和時代に松山市なのか

令和発　万葉集ゆかりの地

「令和」の出典は「万葉集」からであり、万葉集の愛媛県関係の歌は、諸説あるが全て日本最古といわれる道後温泉に関わる歌である。

道後温泉本館は、その歴史ある雄姿を次代に受け継ぐため、「営業しながらの保存修理工事」を進めている。手塚治虫の「火の鳥」とコラボレーションした「道後REBORNプロジェクト」を展開。夜には手塚プロダクション制作のオリジナルアニメーションと連動したプロジェクションマッピングで彩られる。道後温泉の歴史絵巻が演出され、今しか見ることのできない道後温泉本館の姿と道後温泉の入浴を楽しめる。

また、「道後温泉別館飛鳥乃湯泉（あすかのゆ）」の浴室には、万葉歌人の山部赤人と額田王の歌をモチーフに、砥部焼の陶板壁画「道後REBORNプロジェクト」を展開。夜には手塚プロダクション制作のオリジナルアニメーションと連動したプロジェクションマッピングで彩られる。道後温泉の歴史絵巻が演出され、今しか見ることのできない道後温泉本館の姿と道後温泉の入浴を楽しめる。

また、「道後温泉別館飛鳥乃湯泉（あすかのゆ）」の浴室には、万葉歌人の山部赤人と額田王の歌をモチーフに、砥部焼の陶板壁画「道後REBORNプロジェクト」を展開。夜には手塚プロダクション制作のオリジナルアニメーションと連動したプロジェクションマッピングで彩られる。道後温泉の歴史絵巻が演出され、今しか見ることのできない道後温泉本館の姿と道後温泉の入浴を楽しめる。

正岡子規と万葉集

松山が輩出した俳人・正岡子規は、「万葉集は歌集の王なり」と述べているほか、歌を作る際に立ち返るべき原点として「万葉集」を推奨している。

短歌の革新者でもある正岡子規について、唯一、常設・特別展示で学ぶことができる施設が「子規記念博物館」だ。令和の今だからこそ、ぜひ訪れてほしい施設だ。

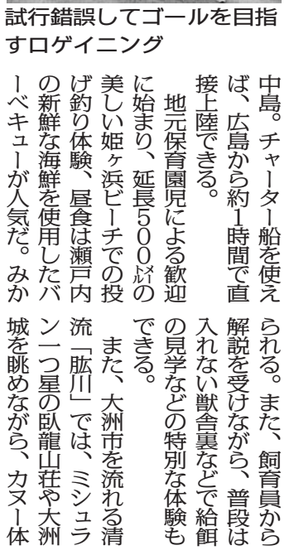
自ら学び・考える体験メニュー

面協力のもと実現したメニューだ。（※2～5人でチームを組み、地図をもとに作戦を立て、時間内にチェックポイントを回りながら得点を競うチームスポーツ）。

チェックポイントには観光・文化スポットが多く、「旅好きが選ぶ！日本の城ランキング2018」で、第3位に輝いた現存12天守の松山城などがある。班別研修をもっと充実させたい時におすすめだ。地理や観光スポットなどを調べておくとより楽しめるため、事前学習も充実する。

事前学習の際には旅行ガイドブック「瀬戸内・松山修学はいく」も活用できる。市内中心部が一目で分かる地図やテーマ別コース例が掲載されるなど、通常の班別自主研修にも適した内容で、松山市の修学旅行ホームページ「おいでんか松山」からダウンロードできる。

松山城で吟行体験


試行錯誤してゴールを目指すロゲイニング

和文化・温泉文化を体験

松山市は、主要施設がまちの中心部にコンパクトに納まっている。宿泊先として同市が推奨する道後温泉とは車で15分以内の距離にあり、宿泊施設の食事やおもてなしは一般旅行と同等レベルの扱いだ。

「俳都松山」にちなんで、俳句をつくり、特設のポストに投句すると、後日、最優秀句にみかんジュースが贈られるといった特別イベントも行っている。また、道後周辺の旅館に宿泊したほとんどの学校が採用している人気メニューが、道後商店街の夜の散策で、風情ある夜の道後温泉周辺を堪能できる。

瀬戸内海の島々で体験

みかん王国・愛媛を牽引（けんいん）してきた瀬戸内海に浮かぶ中島。チャーター船を使えば、広島から約1時間で直接上陸できる。

地元保育園児による歓迎に始まり、延長500㍍の美しい姫ヶ浜ビーチでの投げ釣り体験、昼食は瀬戸内の新鮮な海鮮を使用したバーベキューが人気だ。みかんの収穫時期は10月から5月までの約8カ月間で、農家から収穫方法を学んだ後、収穫体験ができる。

中島でみかんの収穫体験

松山市内から車で1時間で、しまなみ海道の愛媛側玄関口今治市に到着する。世界でも珍しい自転車で渡る橋上サイクリング。瀬戸内海の島々を眺めながらの爽快なサイクリングは世界から注目を集めている。

松山周辺地域とも連携

隣町の砥部町にあるのは、西日本最大級の規模の「とべ動物園」。ここでは動物園の役割や、環境問題についてレクチャーを受けられる。また、飼育員から解説を受けながら、普段は入れない獣舎裏など、で給餌の見学などの特別な体験もできる。

また、大洲市を流れる清流「肱川」では、ミシュラン一つ星の臥龍山荘や大洲城を眺めながら、カヌー体験を行い、自然を満喫することができる。

新居浜市「別子銅山」では、産業発展の歴史を学べる。日本初の山岳鉱山専用鉄道を復元した鉱山鉄道があり、鉱山観光や砂金採り体験も可能だ。

「松山や各地域で、さまざまな分野を探究し、『本物の体験』をすることによって、『感動』『教訓』、そして『最高の思い出』を作ってほしい」（松山市産業経済部観光・国際交流課）。

トロッコ列車で鉱山へ

— 協力 —
松山市産業経済部観光・国際交流課
〒790-8571　愛媛県松山市二番町4-7-2
TEL089-948-6558　FAX089-943-9001
教育旅行専用HP
おいでんか　四国松山　検索

都内で学習旅行誘致
長野県観光機構が説明会

長野県観光機構は8月26日、「学習旅行誘致説明会」を東京都内で開催し、学習旅行の実態報告などを行った。旅行会社の担当者や、県内の宿泊施設関係者らが参加した。

学習旅行誘致推進協議会の富沢友晴担当課長によると、2017年度の県外からの来訪学校数と延べ児童・生徒数は455校、約81万6千人だった。宿泊地別の合計は菅平高原、志賀高原・北志賀高原、その他の佐久地振管内の順で、学校の所在都道府県別は東京、埼玉、神奈川となった。

18年度の海外からの訪日教育旅行は176校（団体）、約5800人で、中国、台湾からの来訪が中心だった。

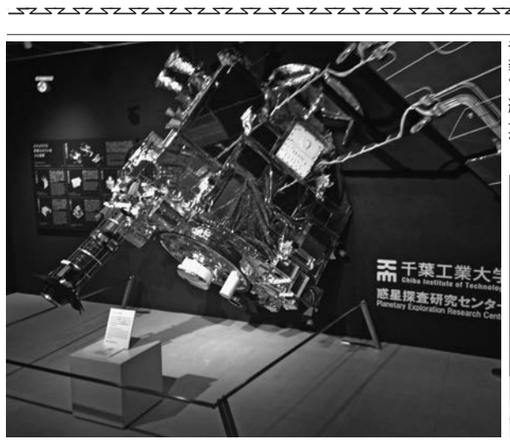
当日は、長野県観光部観光誘客課の田中清継主任によるウインターシーズンの学習旅行の説明も行われた。17年度の県外からのスキー学習旅行の来訪学校数は、合計938校で、前年度の918校に対し20校（2・2％）の増加だったが、延べ児童・生徒数は約30万9千人で、前年度に比べ3・3％の減少だった。

長野オリンピックが開催された1998年と比べるとスキー学習旅行の比率は当時の74・1％から37・9％まで低下した。また、14年以降は中学生のスキー学習旅行が高校生を上回っている。

説明会の様子

その対策として県では近年、「スノーシュー体験」や「ユニバーサルスキー」を提案。スノーシュー体験は初めてでも安心して行え、2人乗りで行うユニバーサルスキーはすべての生徒がスキー体験をできる特徴がある。

併せて、スキーと美術館を組み合わせた提案も積極的に行っている。この10月には長野市にある「東山魁夷美術館」がリニューアルオープンされるなど、県にある美術館・博物館は362館を数え、日本一という。


はやぶさ２

リュウグウ模型

最近では、今話題の小惑星探査機「はやぶさ2」の実物大模型の展示を開始。併せて、はやぶさ2が着陸とサンプルリターンを試みている小惑星「リュウグウ」の7千分の1サイズの模型も展示した。展示されているリュウグウは、3Dプリンターにより表面の凸凹まで忠実に再現され、触ることもできる。

修学旅行などの学校団体に求められる体験学習に力を入れている東京スカイツリーでは、「学校団体予約をさらに利用しやすくするため」（東武タワースカイツリー観光営業部の森本洋正氏）、4月から学校団体の入場予約券の料金を改定し中学生は天望デッキ券950円（税別）、天望回廊セット券1450円（同）に値下げした。また、予約時の利用条件を大幅に見直し、学校団体予約が簡単にできるようにした。

また、事前学習にも力を入れており、そのコンテンツとして「東京スカイツリーの構造や建築技術」「東京スカイツリーが建つ墨田区の歴史」「墨田区の平和」「東京スカイツリー館内説明」を用意している。

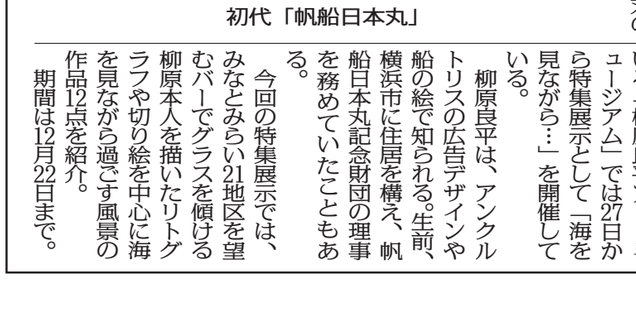
申し込み・問い合わせ先は、東京スカイツリー団体予約センター☎03（3626）0634。

「帆船日本丸」を見学
横浜みなと博物館も
日本丸メモリアルパーク

横浜市の横浜みなとみらい21地区にある日本丸メモリアルパークは、太平洋の白鳥と呼ばれた初代「帆船日本丸」や、横浜港をテーマにした「横浜みなと博物館」を併設。全国の中学校に体験型の修学旅行誘致に向けた情報発信を積極的に行っている。

日本丸は1930年に建造された練習帆船で、国指定重要文化財。船内見学も可能だ。また、横浜みなと博物館では、横浜港の歴史や港の役割を、模型や資料などで分かりやすく学ぶことができる。管理運営する帆船日本丸記念財団によると小・中・高校生向きの「帆船日本丸のキャリア教育プログラム」も取りそろえている。日本丸の船長、航海士によるお話や、船内見学ツアー、ワークショップなどを提案するほか、横浜みなと博物館のガイドツアーも行う。

横浜みなと博物館


初代「帆船日本丸」

リトグラフ「サンセット」27日から特集展示
柳原良平ミュージアム

横浜市にある「帆船日本丸・横浜みなと博物館」（管理運営＝帆船日本丸記念財団）に併設されている「柳原良平アートミュージアム」では27日から特集展示として「海を見ながら…」を開催している。

柳原良平は、アンクルトリスの広告デザインや船の絵で知られる。生前、横浜市に住居を構え、帆船日本丸記念財団の理事を務めていたこともある。

今回の特集展示では、みなとみらい21地区を望むバーでグラスを傾ける柳原本人を描いたリトグラフや切り絵を中心に海を見ながら過ごす風景の作品12点を紹介。

期間は12月22日まで。